

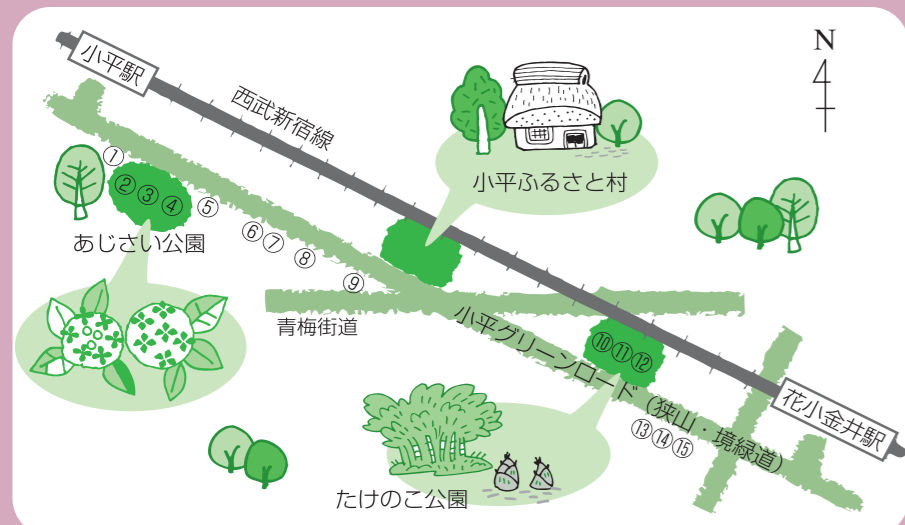
（仮称）小平グリーンロード 美術館事業

小平市ゆかりの彫刻家である齋藤素巖のブロンズ作品を、小平グリーンロードの狭山・境緑道のうち小平駅～花小金井駅間の緑道および沿道の公園に設置し、多くの皆さんに親しんでいただくための空間づくりを目指しました。

設置にあたって台座の寄付募集を行ったところ、15基すべての台座について寄付をいただきました。これにより、15基（16作品）のブロンズ作品を野外展示していきます。

展示の完成後、ブロンズ作品設置ゾーンの愛称を一般公募する予定です。また、武蔵野美術大学の協力を得ながら、市民ボランティアにより、作品のメンテナンスおよび周辺の植栽などを行ってまいりますので、多くの方の参加をお待ちしています。

問合せ 産業振興課 ☎042 (346) 9581



番号	作品名	番号	作品名
①	競技への招待	⑨	遺失物
②	交通	⑩	エゴイスト
③	少女立像	⑪	七十近し
④	農業	⑫	（題不詳）
⑤	ピエロ	⑬	子供と仔鹿、海驢と子供
⑥	自然科学者	⑭	いのしし
⑦	老人	⑮	仔牛
⑧	カバ		

※W：幅、D：奥行、H：高さ（単位：cm）。



④「農業」 W30×D25×H63

⑤「ピエロ」 W45×D23×H92

近代彫刻の旗手「齋藤素巖」

この春から小平グリーンロードで素巖の作品に出会えます

齋藤素巖は、亡くなるまでの31年間を小平市学園東町に居を構え、芸術活動を行った、小平市ゆかりの彫刻家です。

没後、市は、遺族から寄贈された石こう原型を保存するとともに、ブロンズ鑄造をしてきました。昨秋、これらの作品の展示会を中央公民館と武蔵野美術大学の2会場で同時開催しました。素巖が創設した「構造社」の展示会も全国各地で行われています。

また、小平グリーンロードの狭山・境緑道では、「（仮称）小平グリーンロード美術館」を作る事業が、着々と進んでいます。

素巖は、今、最も熱い視線を集めている彫刻家です。



狭山・境緑道



「高橋是清翁像」 H180



「荷重」 W50.5×D55×H188.5



①「競技への招待」 W109×D27×H72



⑥「自然科学者」 W46×D47×H40



⑬「子供と仔鹿」 W25×D11×H20



⑨「遺失物」 W49×D14×H25



「武器を棄つ」 W110×D102×H140

さいとうそがん 齋藤素巖 (1889—1974)



齋藤素巖は、大正元年から文展などに作品を発表し、数々の受賞を重ねる一方、建築との総合を目指したわが国初の本格的な彫造専門団体「構造社」を設立した日本近代を代表する彫刻家の一人です。

昭和5年に兜町株式取引所ビルに設置された「商業・農業・工業・交通」（昭和63年のビル解体とともに取り壊される）のほか、兵庫県淡川公園「大楠公像」、東京赤坂の高橋公園「高橋是清翁像」が代表作としてよく知られています。

小平市（学園東町）には昭和18年に転居し、昭和49年に亡くなるまで、この地で制作活動を行いました。

小平市では、素巖の没後、遺族から寄贈された240点を超える石こう原型の保存に努めるとともに、およそ50点のブロンズ鑄造を行ってきました。ブロンズ作品の一部は小平市役所南側の芝生広場（「荷重」）や、ルネこだいら、中央図書館玄関壁面などに設置されていますが、今後、小平グリーンロードの小平駅から花小金井駅間にも16点設置する予定です。

また、市では、昨年、武蔵野美術大学と共同で、石こう原型の初めての学術的な調査を行いました。この成果は、武蔵野美術大学（石こう原型の展示：11月15日～12月10日）と中央公民館（ブロンズ作品の展示：11月15日～27日）の2つの展示会で紹介し、連日、多くの方にご覧いただきました。現在、「構造社」の展示会「構造社 昭和初期彫刻の鬼才たち」展も全国各地で開催中です（札幌芸術の森美術館（北海道）：1月15日まで、松戸市立博物館（千葉県）：1月28日～2月26日）。

略年譜

明治22年	10月16日 父知三、母かねの三男として東京市牛込区市ヶ谷富久町で生まれる。本名知雄	大正6年	第11回文展に「秋」（レリーフ）を出品し、初入選する
明治35年	府立第四中学校（現戸山高校）に入学	大正7年	第12回文展に「敗戦」を出品し、特選となる
明治40年	府立第四中学校を卒業 東京美術学校（現東京芸術大学）西洋画科予備科に入学（9月本科へ進む）	大正15年	白子美三とともに「構造社」を結成
明治45年	東京美術学校西洋画科を卒業	昭和5年	兜町株式取引所ビルに「商業・農業・工業・交通」を各2体、計8体を設置
大正元年	島根県杵築中学校教員となる	昭和12年	帝国芸術院会員となる
大正2年	彫造を学ぶため、イギリスに渡る	昭和18年	現在の小平市学園東町に転居
大正5年	帰国。本郷菊坂町に落ち着き、その後、田端105番地に移る	昭和29年	日展常務理事に就任
		昭和47年	日本彫造会名誉副会長に就任
		昭和49年	2月2日死去（満84歳）

（資料提供：生涯学習推進課）

ブロンズ、石こう原型展示会を開催しました



武蔵野美術大学



中央公民館